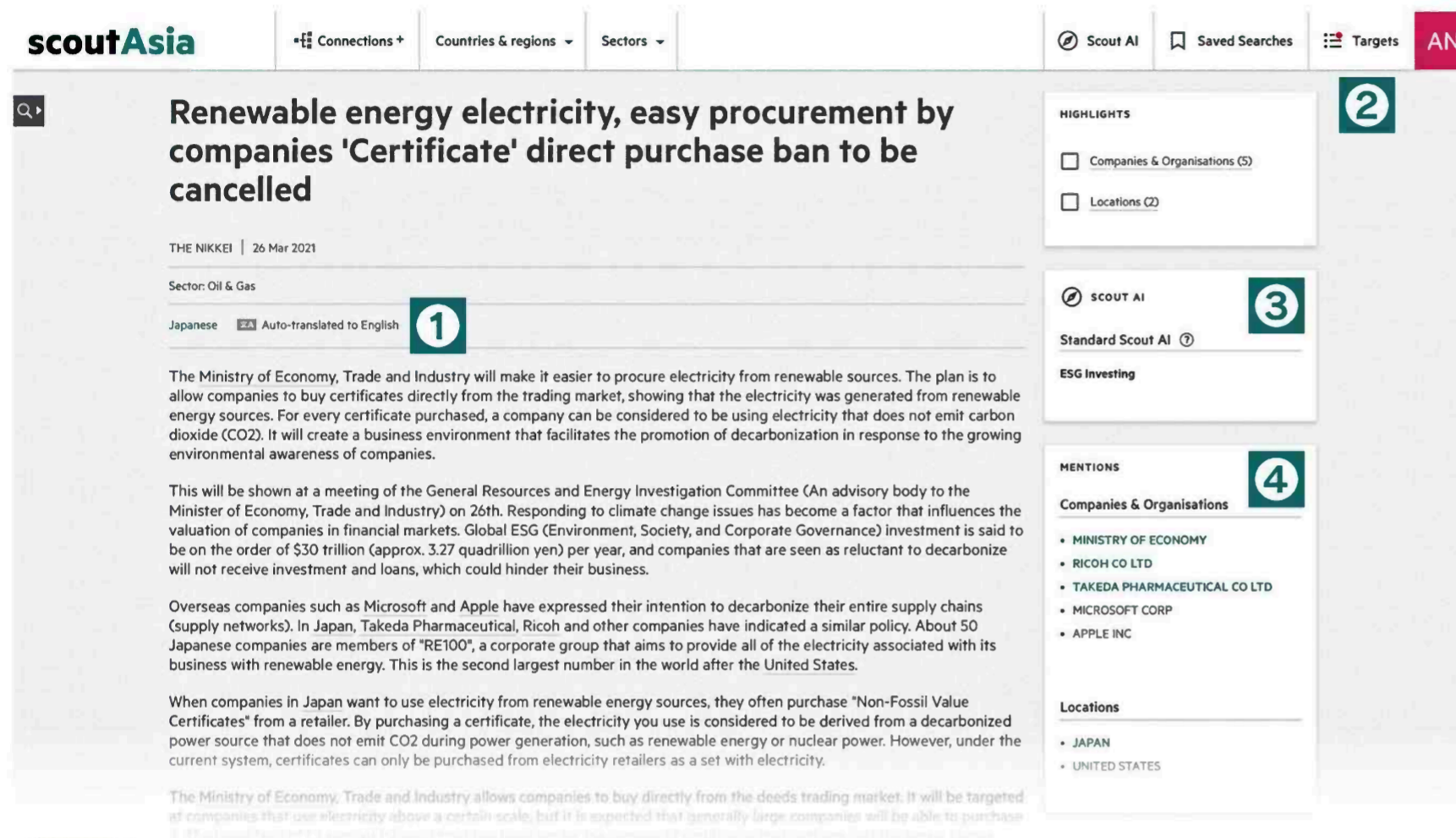


AIがニュースや特集記事を利用者のニーズに合わせて抽出。
英語を日常的に使うビジネスパーソンを日経コンテンツがサポート



機能例

① 言語切り替え(日本語⇄英語)

ワンクリックで表示言語を切り替え。訳文と原文を相互参照することができます

② 検索の保存機能・ターゲットリスト

よく使う検索条件や関心のある企業のリストに基づいてコンテンツを表示します。関連ニュースが毎日メールで通知されます

③ 人工知能による記事抽出

注目トピックの関連記事を人工知能(AI)が選定。精度の高い記事抽出によりニュースの見逃しを防ぎます

④ 記事中の企業・団体名

クリックすると企業プロフィールや関連記事のページに遷移します

50万社

以上の企業データを収録

400+本/日

最新ニュースを毎日お届け

日本経済新聞朝夕刊、日経産業新聞、日経MJ、日経ヴェリタスに掲載された記事のなかで、電子版に収録された記事や、企業業績・財務情報の「決算サマリー」のコンテンツも対象です

「日経」をAI翻訳 英文でアジアへ

日本経済新聞社と英フィナンシャル・タイムズ(F T)が共同展開している法人向け英文ビジネス情報サービス「ScoutAsia(スカウトアジア)」は、人工知能(AI)を活用して日本経済新聞の記事を英文で提供する新サービスを始めました。高度な自動翻訳技術によって日経新聞電子版などに掲載する経済情報をほぼリアルタイムで英文発信し、グローバルを舞台に英語を日常的に使うビジネスパーソンに役立つサービスを目指します。

企業情報も提供 事業発掘を支援

新サービスは「スカウトアジア・ジャパン」。日経電子版に掲載される記事の中から、1日あたり400本程度の経済関連ニュースを英文で収録します。提供するニュースのジャンルは企業、マクロ経済、政治、マーケット、技術など幅広く、日本経済新聞朝夕刊のほか、日経産業新聞、日経MJ、日経ヴェリタスからの電子版掲載記事や、企業の決算情報も対象です。

このサービスを可能にしたのは日経独自のAIによる高度な機械翻訳技術です。言語理解研究所(徳島市)と開発し、2018年から「日本経済新聞電子版Pro」で一部記事を英訳併記で提供してきました。ビジネスニュースにおいて重要な、企業名や人名などの固有名詞、日付、金額といった情報を正確に英訳できるのが特長です。

スカウトアジアは利用者のニーズに応じてアジア24か国・地域180万社の企業データベースも搭載し、新しい商談や業務提携、M&A(合併・買収)などの可能性を探るリサーチ業務もサポートします。たとえば、利用者が「ESG(環境・社会・企業統治)」の検索条件で抽出した記事を読むと、本文で言及された企業名をサービス画面に表示し、その企業の事業内容や経営陣、過去の関連記事を確認することができます。

AI翻訳記事の新サービスは、海外投資家向けにはシンガポール取引所(SGX)の取引プラットフォーム「Titan 0TC」を通じて提供します。株式や為替、商品など、主要な相場商品・関連情報に基づいて12分類された記事をウィジェット(小型アプリ)内で記事の一部を表示し、利用者は本文の詳細をスカウトアジアで読むことができます。

▶「ScoutAsia Japan(スカウトアジア・ジャパン)」

日経電子版の英訳記事と、日本の上場・非上場企業のデータに特化した新たなサブスクリプションプランです。新聞記事のほか、アジアビジネスに関心を持つビジネスパーソン向けの英文メディア「Nikkei Asia」のニュースもお読みいただけます。グローバル企業の経営企画や戦略策定部門、国際機関などに勤務する、英語を日常的に使う方の「日経記事を英語の環境で読みたい」というニーズに対応します。日本を含むアジア24か国・地域を網羅した「スカウトアジア」サービスもあり、日々の新規収録記事数は約2500本、収録企業数は180万社に達します。

特別キャンペーン実施中



新サービス「スカウトアジア・ジャパン」を無料で2週間お試しください。スカウトアジアは法人向けサービスです。チームや部署単位でのご利用が可能です。

特設サイト(s.nikkei.com/scout_japan)(言語は英語です)からお申し込みください。QRコードからもアクセスできます。お問い合わせはscout@nex.nikkei.co.jpまで。